令和3年度生息状況調査結果(県南部区域)

1. 目的

令和3年度に実施した指定管理鳥獣捕獲等事業(以下「指定管理事業」という。) の事業評価、及び令和4年度の指定管理事業実施計画を検討するための基礎情報 とすることを目的として、ニホンジカ(以下「シカ」という。)の糞塊密度調査 (以下「糞塊調査」という。)を実施した。

2. 方法

2-1. 対象地域

糞塊調査ルートの分布を図1に示す。

糞塊調査は、指定管理事業の実施区域内に設定された既存の 3 ルートで実施した。各ルートは、可能な限り尾根上に設定し、連続性の確保に努めたが、連続性の確保が困難な場合は断続的に設定した。

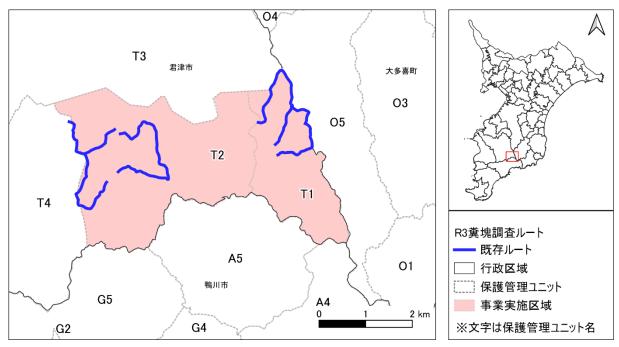


図1 糞塊調査ルート及びカメラ調査地点の分布

2-2. 調査期間及び調査方法

糞塊調査について、調査期間と調査方法を表1に示す。

我 「 美苑副直及 0 カ 7 7 列直 2 副直列 10 こ 副直力 2 日								
手法	調査期間	調査方法						
糞塊	令和3年	・環境省が平成 26 年度に実施した生息密度指標把握調査						
調査	12月26日	に準じて実施。						
		・設定したルートの左右 1m(計 2m)を観察。						
		・発見した糞塊について、10 粒以上と 10 粒未満に分け						
		て、新鮮度別(新・中・旧)にその数を記録*1。						
		・糞塊密度は、10粒以上で新鮮度が新または中の糞塊数の						
		○ → 大理木明帷 (1) で除して管山						

表 1 糞塊調査及びカメラ調査の調査期間と調査方法

| 合計を調査距離(km)で除して算出。 ※1:接した場所で複数の糞塊が発見された場合、糞の新鮮度やサイズ等から明らかに同一個体の糞塊と判断したものについては、1つの糞塊として記録。

3. 結果

<糞塊密度調査>

令和3年12月に実施した糞塊調査の結果を図2、表2に示す。なお、糞塊調査ルートは「KD●」とした。

- ・ 調査を実施した3ルートの全てで、糞塊が確認された。
- ・ 糞塊密度は、区域内西部のルート KD1 で 3.2 個/km と最も高く、最も低いルート は KD2 で 2.0 個/km であった。

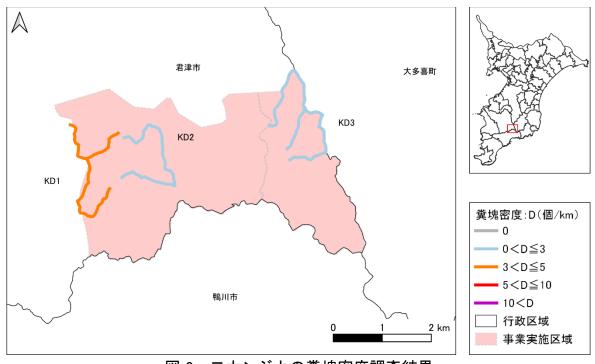


図 2 ニホンジカの糞塊密度調査結果

表 2 各糞塊調査ルートにおける糞塊数と糞塊密度

調査ルート	市町	鳥獣保護管理 ユニット	総距離 (km)	10粒以上			糞塊合計	糞塊合計 (「10粒以上」	糞塊密度 (「10粒以上」
				新	中	旧	(総計)	「新」「中」)	「新」「中」)
KD1	君津市	Т2	4.05	7	6		13	13	3.21
KD2	君津市	Т2	3.53	2	5		7	7	1.98
KD3	君津市	T1	5.29	5	9		14	14	2.65

<糞塊密度の経年変化>

調査を開始した平成30年度以降の糞塊密度の推移を表3に示す。

- ・ 平成30年度から調査を開始し、翌年KD3で微減の後、今回はさらに減少した。
- ・ KD2 では平成 30 年度比で大幅に減少した。
- ・ 一方、KD1 は大きな変化は見られなかった。

表 3 平成 30 年度以降の糞塊密度の推移

ルート名	鳥獣保護管理	糞塊密度(10粒以上「新」「中」、個/km)					
	ユニット	H30	R01	R02	R03		
KD1	T2	3.95	_	_	3.21		
KD2	T2	16.13	_	_	1.98		
KD3	T1	7.56	6.05	_	2.65		

※前回比で増加を赤、減少を青、変化なし及び初年度を白で網掛け ※令和元年度は台風の影響により KD1 及び KD2 で調査未実施

<糞塊密度と捕獲結果の比較>

糞塊調査結果と1kmメッシュで整理した捕獲結果を図3、市原・大多喜地域との 糞塊密度の比較を図4に示す。

- ・ 事業実施区域の西部は、糞塊密度が高く、捕獲数も多いことから、生息密度が高いことが考えられる。
- なお、本区域の糞塊密度は市原・大多喜地域と比較すると比較的低密度であった。 一方、捕獲数は本区域の方が多く糞塊密度の過小評価が懸念されるが、本区域は標高が高いこと、さらに本区域では昨年度まで捕獲が実施されておらず、捕獲しやすい状況であったことが考えられ、調査継続により、データを蓄積する必要がある。

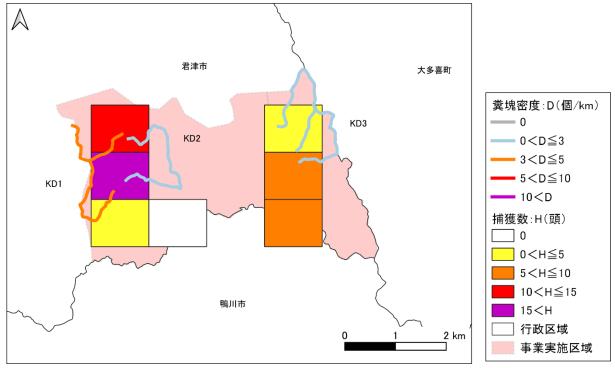


図3 シカの糞塊密度と捕獲結果の比較

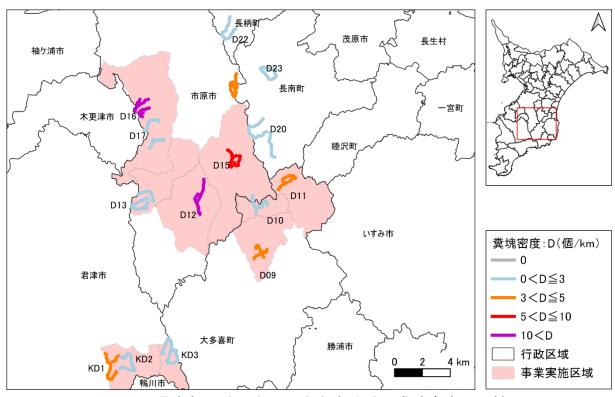


図 4 県南部区域と市原・大多喜地域の糞塊密度の比較